

KAKOKITA TIMES

学校通信 加古北タイムズ

兵庫県立加古川北高等学校
教育マネジメント部



第44回生 卒業証書授与式

2月28日、卒業証書授与式が行われ、44回生228名が巣立っていきました。44回生はコロナ禍で中学校生活を過ごし、そのまま本校に入学してきました。様々な制約から解かれることを期待しながらスタートさせた北高生活。勉強、部活動、友人関係、進路実現など228通りのストーリーをつくりあげ、新たな世界へとつないでいきます。KAKOKITA TIMES 最終号では式辞や送辞、答辞からの言葉と式直後の卒業生へのインタビューを掲載します。

式辞より(抜粋)

振り返ってみれば決して平坦な道ばかりではなく、つまずいたり悩んだりしたこともあったかと思えます。その一つひとつが高校生活の貴重な体験として、これからの人生の糧となることでしょう。

卒業する皆さんは、本校在学中の三年間で培われた力 思考力・判断力・表現力などを発揮し、新たな時代に対応し、挑戦し続け、活躍することと確信しています。

下を向いていても横を向いていても前は見えません。前を向いてポジティブに進んでください。

混沌とする時代だからこそ「主体的に人生を切り拓くこと」「挑戦し続けること」ができる「人」作りが求められることと感じます。

学校長 岸部健司



送辞より

先輩方はそれぞれの道に進んでいかれると思います。これから先、苦しいことや辛いことがもちろんあると思います。でも、そんな時には高校三年間仲間と主として過ごしてきたことが必ず生きてくると思います。自分の夢を追い続け最後まで諦めずに頑張ってください。

在校生一同心から応援しています。

在校生代表 富士勇星



答辞より

(お世話になった方々・保護者へ)
何気なく送っていた学校生活を振り返ると、何不自由なく過ごさせて貰えていたその幸せに気づくことができず、素直になれず、自分が勝手に反抗的な態度を取った時でさえ、私たちのことを考えて愛を持って接してくれたこと。最後まで私たちの思いや意思を支持してくれたこと。私たちに前に踏み出す力を与えてくれてありがとう。これに限られた人生の中で私たちは私たちの道を全力で全うして行きます。(在校生へ)一年前の私が先輩方の卒業式に参列していたあの時は、卒業までの日々を今までと同じスピード感で捉えていました。ですが、遠くにあるように感じても、時間の経過は恐ろしく早いものです。残りの時間をどう過ごすかは、あなた自身に託されています。最後に満足する形で旅立てるよう、存分に今を感じ、今をすごしてください。

卒業式代表 川西葉月

